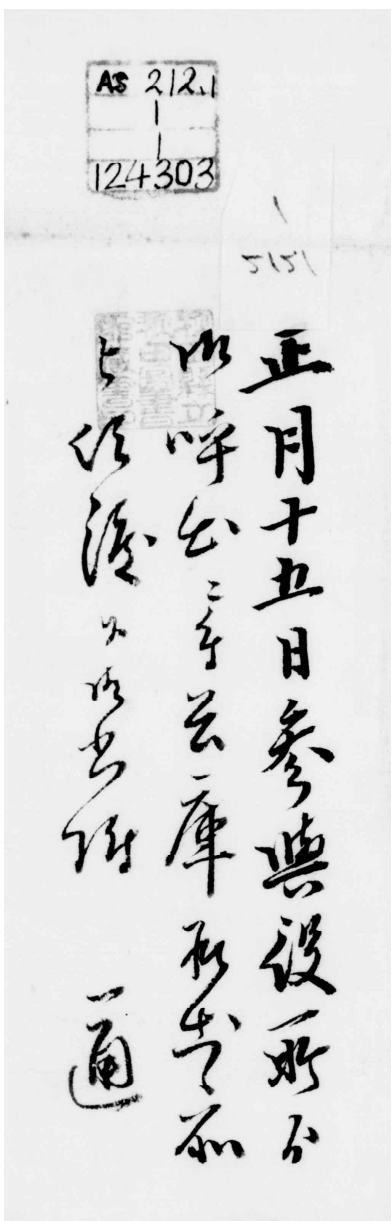
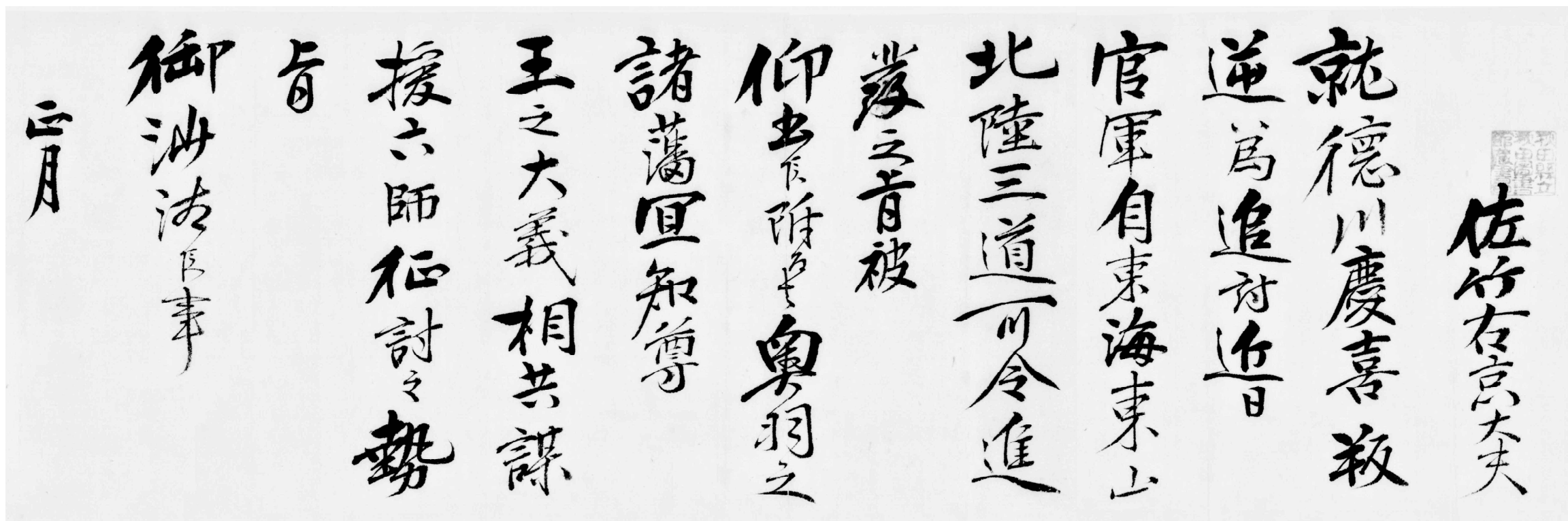




〈包紙〉

正月十五日参与役所より
御呼出ニ付、兵庫罷出候所、
被仰渡候御書附 一通

AS212. 1-1-1 徳川慶喜追討沙汰書



佐竹右京大夫

就徳川慶喜 叛
逆、為追討、近日
官軍、自東海・東山・
北陸三道可令進
發之旨、被
仰出候。附ては、奥羽之
諸藩、宜知尊
王之大義、相共謀、
援六師征討之勢
旨

御沙汰候事
正月

〈書き下し文〉

佐竹右京大夫

徳川慶喜 叛
逆（に）就き、追討として、近日
官軍、東海・東山・
北陸三道より、進
發せしむべく之旨、
仰せ出され候。附いては、奥羽之
諸藩宜（しく）尊
王之大義（を）知り、相共（に）謀（り）
六師征討之勢を援（く）
旨
御沙汰（に）候事。
正月

就徳川慶喜叛
逆為追討旨
官軍自東海・東山・
北陸三道可令進
發之旨被
仰出候。附ては、奥羽之
諸藩宜知尊
王之大義相共謀
援六師征討之勢
旨

御沙汰候事
正月

佐竹右京大夫
就徳川慶喜 叛
逆、為追討、近日
官軍、自東海・東山・
北陸三道可令進
發之旨、被
仰出候。附ては、奥羽之
諸藩宜知尊
王之大義、相共謀
援六師征討之勢
旨
御沙汰候事。
正月



〔包紙〕
「貼札」四 正月十五日ノ記ニ全載スヘシ
戊辰
正月十五日参与役所より
御呼出二付、兵庫罷出候所
被仰渡候御書附 一通

AS212. 1-1-3
174302
入記

一 正月九日諸大夫之間

仮建所へ召候

に付、長瀬兵部罷出候

所、参与衆御列席にて

被仰渡御書附忝通。

同月十一日、御用召にて

兵部参

朝仕候所、於虎之間

坊城侍従様御渡之

御書付忝通。

一 同十五日、参与役所より

御呼出二付、兵庫罷出

候所、被仰渡候御書付

忝通。

一 御内勅御書附忝通。

以上

以上

二月四日

入記

一 正月九日、諸大夫之間

仮建所へ被為召候

に付、長瀬兵部罷出候

所、参与衆御列席にて

被仰渡御書附忝通。

一 同月十一日、御用召にて

兵部参

朝仕候所、於虎之間

坊城侍従様御渡之

御書付忝通。

一 同十五日、参与役所より

御呼出二付、兵庫罷出

候所、被仰渡候御書付

忝通。

一 御内勅御書附忝通。

以上

二月四日

今般御内意之趣
承知仕奉畏入候
朝廷御復古之折柄
叛逆之者有之奉
惱
宸襟候段於私共
深奉恐入候就而
右京大夫儀年來
國役多端領内疲
弊及此節微力二
罷在候得共旧来

（包紙）

戊辰

正月十一日、御用名にて、兵部参り
朝廷候处、虎之間ニ於て坊城侍従様
御渡之御書附

（三）正月十一日ノ記ニ全載スヘシ

今般御内意之趣

承知仕、奉畏入候。抑

朝廷御復古之折柄

叛逆之者有之奉

惱

宸襟候段、於私共

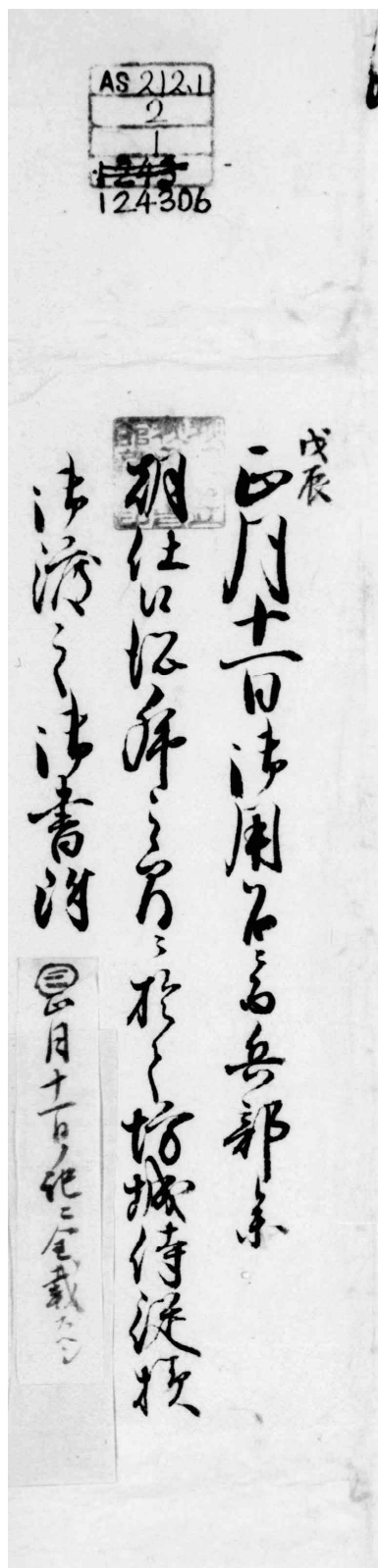
深奉恐入候。就て

右京大夫儀、年來

国役多端、領内疲

弊二及、此節微力二

罷在候得共、旧来



大祿ヲ賜厚ク奉
蒙
御國恩居候儀而
座候得者聊報恩
之為羽刻一國之
儀者速ニ恭順欽
奉候様可仕候旨去
元来遠境之儀
王化之未及無候向
々ハ教諭鎮撫ヲ加
可申若又順服不仕
候者於有之者断
然討伐モ可仕候尤
國內勤

大祿ヲ賜、厚ク奉
蒙
御國御居候儀ニ御
座候得は、聊報恩
之為、羽州一國之
儀は、速ニ恭順欽
奉候様可仕候。乍去
元来遠境之儀、
王化之未及兼候向
々ハ教諭鎮撫ヲ加
可申。若又順服不仕
候者於有之は、断
然討伐モ可仕候。尤
國內勤

王之諸藩者大小
不抱夫之談合可仕候
惣而令般正明寛
大之
御仁政難有奉敬
承候儀、御座候得
ハ御趣意ニ違ヒ不
申様精勤可仕候
右ハ大事件之儀ニ
御座候得ハ早々
右京太夫ニ申遣追
委曲申上候様可
仕候得者、右之趣
不取敢私ヨリ御請
奉申上候以上
御名家老
正月 真崎兵庫

王之諸藩は、大小二
不抱、夫々談合可仕候。
惣て今般正明寛
大之
御仁政難有奉敬
承候儀ニ御座候得
ハ御趣意ニ違ヒ不
申様、精勤可仕候。
右ハ大事件之儀ニモ
御座候得ハ、早々
右京太夫へ申遣、追て
委曲申上候様可
仕候得共、右之趣
不取敢私ヨリ御請
奉申上候。以上

正月
御名家老
真崎兵庫



佐竹右京大夫

急而被

召設儀儀々全公平

衆議ヲ可被為採

思召之處豈圖んや

突然干戈ニ至り終ニ大

號令被發儀通ずる

国力相應人數引纏

速ニ上京可有之

御沙汰儀事

正月

但危急之御時節より速

上京勿論儀得共路程遠近も

有之儀事故凡々處在京宮

次或は留守居共見込之報

可申出共上

御沙汰之旨も可有之尚又

當主不覺等より上京難致
白く名代又は家老者可
差出儀事

佐竹右京大夫

兼て被

召設候儀は、全公平

衆議ヲ可被為採

思召之處、豈図んや

突然干戈ニ至り、終ニ大

号令被發候通ニ付、各

国力相應人數引纏

速ニ上京可有之

御沙汰候事

正月

但、危急之御時節ニ付、速ニ

上京勿論候得共、路程遠近も

有之候事故、凡之處在京重

役、或は留守居共見込之趣

可申出。其上

御沙汰之旨も可有之。尚又

当主所勞等ニて、上京難致

向は、名代又は家老者可

差出候事。

御名
 思召有之別紙之通
 仙臺中將
 仰付後隨而具藩
 於之無而祀
 聞召入後義も有之
 後付俱々々勉勵
 應愛可
 奏成功之旨
 御沙汰候事
 仙臺中將
 會津容保今度
 徳川慶喜之反謀
 與之錦旗砲發シ
 大逆無道可被發
 征伐軍及伺其藩

御名
 思召有之、別紙之通
 仙台中將之被
 仰付候。随ては其藩
 二於て兼て被
 聞召入候義も有之
 候二付、俱ニ々々勉勵
 応援可
 奏成功之旨
 御沙汰候事。
 仙台中將
 会津容保、今度
 徳川慶喜之反謀
 二与シ、錦旗砲發シ
 大逆無道可被發
 征伐軍候間、其藩
 一手ヲ以本城襲撃
 速ニ可
 奏追討之功之旨
 御沙汰候事
 正月
 〈裏書〉
 正月廿五日御達し

二月廿五日御達し

一手ヲ以本城襲撃
 速可
 奏追討之功之旨
 御沙汰候事
 二月

〈包紙〉
 慶応四辰正月、於京
 地御達之写 数通
 「貼札」軍令二

AS 212.1
 3
 慶應四辰正月 於京
 地御達之写 数通
 軍令二

思召被為 在御別紙
通仙臺中将様被
仰付候 随而之旨被
御召入候 義も有之候
身俱々 勉勵應
援可
奏成功之旨被
仰出御沙汰之御旨
奉畏候 早速右京大夫に
可申達候 此段御請
申上候 以上
秋田中将家老
真崎兵庫
正月廿六日



思召被為 在御別紙
之通、仙台中将様之被
仰付候。随ては、兼て被
聞召入候義も有之候
二付、俱々々々勉勵応
援可
奏成功之旨被
仰出、御沙汰之御旨
奉畏候。早速右京大夫へ
可申達候。此段御請
申上候。以上
秋田中将家老
正月廿六日 真崎兵庫

秋田中將

就德川慶喜叛逆為

追討近日

官軍自東海東北陸

三道可令進發之旨被

仰上候其藩東北雄鎮

奕葉名家深知尊

王之大義者然奧羽之

諸藩未弁君臣之分者

往々有之其藩宜鼓舞

之相共謀可被援六師

征討之勢旨、内々

御沙汰候事

AS 212.1

戊辰
御内勅御書付

AS 212.1

正月十六日御内々大角之渡
岩倉中將殿

（五）

近白大小藩可有屯京
旨並被仰上候共
右應援戮之旨者不
其儀各在國蓄兵力備
糧食可被專軍國之
智也

正月

〔包紙〕 戊辰 御内勅御書付

〔包紙〕 正月十六日御内々大角之渡

岩倉中將殿

（五） 正月十六日ノ記ニ全載スヘシ

秋田中將之

就德川慶喜叛逆為

追討、近日

官軍、自東海・東山・北陸

三道可令進發之旨被

仰出候。其藩東北雄鎮

奕葉名家、深知尊

王之大義者、然奧羽之

諸藩未弁君臣之分者

往々有之、其藩宜鼓舞

之、相共謀可被援六師

征討之勢旨、内々

御沙汰候事。

追て大小藩可有登京

旨前般被仰下候得共、

右応援戮力之向は不及

其儀、各在國蓄兵力備

糧食可被專軍國之

務候也。